

サイエンス コミュニケーターだより

Volume 2
May, 2015
<http://kahaku.sc>

みなさんは「サイエンスコミュニケーター」を知っていますか？ サイエンスコミュニケーターとは、社会のいろいろな場面で「人」と「科学・技術」をつなぐ人材です。国立科学博物館も、2006年度から「サイエンスコミュニケーター養成実践講座」を開講し、その修了生はいまや200名以上となっています。

本誌は、国立科学博物館の講座を修了したサイエンスコミュニケーターでつくる有志団体「国立科学博物館サイエンスコミュニケーター・アソシエーション（科博 SCA）」と、みなさんとをつなぐ広報誌です。科学をさまざまなかたちで伝え、広めて共有していくコミュニケーターたちの横顔をご覧ください。

サイエンスコミュニケーターの声

教科書編集の仕事場から ～サイエンスコミュニケーターと編集者の共通点～

こんにちは。私はサイエンスコミュニケーター養成実践講座修了生の池谷知夏といいます。普段は小学校の教科書の「編集者」をしています。

何気なく見ている教科書ですが、実は特別な書物なんです。教科書には一般の書物と違い、検定という制度があり、これをクリアしないと世に出すことはできません。国が定めた「学習指導要領」には学校で教えなければいけないことが書かれていて、これがきちんと盛り込まれているかチェックされるのです。

では、編集者の仕事はというと、一言でいうなら「調整すること」です。内容を考える著者の先生、挿絵を描くイラストレーター、写真を撮るカメラマン、レイアウトをするデザイナー、検定をする先生など、たくさんの人たちの中心で、編集者は全体に目を配っています。例えるならば、編集者はコックさんのようなもので、学習指導要領というレシピに沿って、著者の先生たちに最高の材料を用意してもらい、先生や子どもたちが食べやすいようにアレンジして、教科書という料理を作る……という、少しイメージしやすいでしょうか。

あるとき、こんなことがありました。ある先生が「低学年から空間認識の力を鍛えたほうがいい。2年生で地図作りをやろう」と提案したのです。2年生では社会科はまだ始まっていません。「まだ早いのでは？ 現場では難しいのでは？」と心配する声もありましたが、せっかくのアイデアを教科書に盛り込めないかと編集部も考えました。「地図作りは2年生でもできるのだろうか」「先生が授業をするとき、やりにくくはないだろうか」、この二つが問題でした。

まず、私たち編集者が学校にお願いして、提案者の先生が授業をすることになりました。すると、2年生の子どもたちは嬉しそうにどんどん地図をかくていったのです。2年生でも簡単な地図がかかることに私はびっくりしました。一つ目の問題はクリアできそうでした。

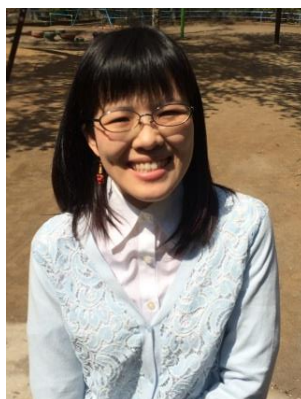
次に、若い先生に授業をお願いしました。子どもたちはどんどん地図をかくていきますが、先生は「授業のまとめ方が難しい」とのこと。そこで、二つ目の問題は会議で話し合うことになりました。

結果、現場の先生が授業をしやすいように、まとめ方の例をたくさん出すことにし、地図作りは教科書に載ることになりました。その後は、イラストレーターと綿密に打ち合わせ、最高の絵を仕上げてもらい、デザイナーにわかりやすい位置にレイアウトしてもらいました。

このように編集者は、専門家の意図をくみ取り、他者を巻き込みながら、最適な教科書を目指し試行錯誤をしています。これは、専門知識を一般の人に伝えるサイエンスコミュニケーションの活動と通じると考え、講座を受講しました。

講座で特に思い出深いのが、イベント作りです。一から企画し、予算やスケジュールを管理するなど、編集長レベルでないとできない経験ができ、受講前より仕事全体が見えるようになりました。

今後は教科や教科書の魅力を一般の人に伝えることや、サイエンスコミュニケーターとして科学と一般の人をつなぐ活動にも力を入れていきたいと考えています。



仕事風景…

池谷 知夏

国立科学博物館認定サイエンスコミュニケーター(9期)。大学では植物中の薬効成分の研究に携わる。2010年から教科書出版会社に勤務。現在、空手黒帯を目指して特訓中！

活動紹介

科博 SCA の会員は、サイエンスコミュニケーションに関連するさまざまな活動を行っています。今回はそのなかから、サイエンスカフェ分科会および Doctors 分科会の活動と、サイエンスコミュニケーター養成実践講座 (SC 講座) のプログラムの一部として開催された二つのサイエンスイベントをご紹介します。

サイエンスカフェに科博館長登壇！！

館長プレミアムトーク vol.1 ～私とイヌの素敵な関係～ (2015年2月28日開催)



科博館長の林 良博さんをお招きし、サイエンスカフェを開催しました。館長はイヌを含む家畜動物を幅広く研究されてきた方で、当日は20～30代を中心とした24名の参加者と「イヌの気持ち」や「ペットロス」といった話題で盛り上がりました。参加者の方からは「科博がイヌを取り上げて嬉しかった」や「館長がとても気さくだった」といった意見をいただき、主催者の私たちも嬉しかったです。本イベントの詳細や、今後のイベント開催予定についてはブログ (<http://cafe.blog.shinobi.jp>) をご参照下さい。

(サイエンスカフェ分科会 糟谷 豪)

われら、SCA Doctors！

Doctors 分科会のご紹介



昨年度「Doctors」という分科会を立ち上げました。科博 SCA 会員で博士号を持っている人はもちろん、博士課程に在籍中の方、中退した方、進学や復学を迷っている方などが「博士課程をキーワードに集まり交流する」ことが目的です。さまざまな人がいる科博 SCA ですが、初の「会員の属性で集まる」分科会。首都圏にいなくても受講期が違って、まずは会員同士がつながって、そこから生まれるアイデアが今後のサイエンスコミュニケーションの種になっていけばと思います。昨年8月末の顔合わせ会では個性のぶつかりあう音が聞こえそうな盛り上がりが見られました。現在、総勢23名、まだまだメンバー募集中です！

(Doctors 分科会 水川 薫子)

人骨昔ばなし ～みんなの知らない江戸のホント！～

2014年度 SC 講座受講生開催イベント その① (2014年12月13日開催)



教科書にも載っていない、過去のことってどうやったら調べられるでしょう？ すぐに思い浮かぶのは文献を探すというやり方でしょうか。でも、人の骨(人骨)も重要な手がかりの一つとなります。今回のゲストは人類学者の篠田謙一さん。普段は、人骨から人類の起源を研究されています。当日は、19名の参加者と一緒に、江戸時代の人骨をもとに当時の様子を紐解いて行きました。その結果、武家と平民で骨格が大きく違ったことや、慢性的な栄養不足だったことなど……文献だけではわからない江戸時代の一面を知ることができました。

(SC 講座 9期修了生 糟谷 豪)

建物の秘密を解き明かす —— 「ようこそ！ 建築探偵団！」

2014年度 SC 講座受講生開催イベント その② (2014年12月13日開催)



彼の名は久保田稔男。国立科学博物館理工学研究部に所属する研究員である。しかしこれは世を忍ぶ仮の姿で、彼はひそかに「建築探偵団」を組織して日本各地に潜む近代建築物の秘密を追っている。この日、探偵団に17名の方が入団した。早速調査してもらったのは、国立科学博物館日本館。「旧東京科学博物館本館」の別名を持つこの建物について、意匠の特徴や造形の意味、たどってきた歴史を紐解いていった……。本イベントではこのような演劇的要素も取り入れつつ、実際に建物内を巡り、考えたり感じたりしたことを話し合いました。

(SC 講座 9期修了生 杉山 啓)